

【 血管撮影 部門】

● 血管撮影とは？

血管造影検査、アンギオグラフィー、アンギオ検査とも呼ばれる検査です。

血管撮影検査では、血管の状態や流れを調べるためにカテーテルと呼ばれる細い管を腕や足の付け根（鼠径部）の動脈から、脳や心臓、肝臓などの目的の臓器の血管まで挿入し、造影剤を用いて血管を撮影する検査です。血管の狭窄部位や閉塞部位、腫瘍に栄養をわたしている血管を調べるのに有効です。また、狭窄している血管を広げたり、腫瘍に栄養をわたしている血管の塞栓をしたり、様々な治療を行うこともできます。

● 装置（使用機器）

頭頸部、腹部、四肢 IVR（Interventional Radiology：侵襲的放射線療法）専用装置

[SIEMENS 製 Artis-Zee-BA-twin]

FPD (Flat Panel Detector：平面検出器) 搭載型フルデジタル装置

同時2方向透視撮影、回転DSA (Digital Subtraction Angiography：デジタル減算血管撮影法) による3D画像表示が可能です。また、高分解能CT機能等を備えた最新のFPD搭載型フルデジタル装置を2台設置しています。これらの装置を利用して、1度の撮影で2つの方向から血管が観察される事から、造影剤使用量の低減が可能で、患者さんに優しい装置となっています。



血管撮影の件数は、年間約900件(平成29年度)の検査・治療を実施しています。このうち、開頭手術することなくカテーテルを鼠径部の血管から挿入し、造影剤を用いて行われる脳血管内手術、動脈瘤等による塞栓や、細くなり循環が悪くなった血管をバルーン(風船のようなもの)やステント等で拡張する脳血管形成術等のIVRを年間約70件実施しています。

心臓血管専用装置

[島津製作所製 Trinias]

FPD 搭載型フルデジタル装置

最新のFPD搭載型フルデジタル装置を設置し、虚血性心疾患を中心に検査を実施しています。その中で、



冠動脈形成術(狭窄した冠動脈をバルーンやステントで拡張する治療)のみならず最新の治療法を取り入れ、治療件数は約 200 件実施しています。また、急性心筋梗塞に対する経皮的冠動脈形成術等の IVR を年間 約 50 件実施しています。

当院では、急性期脳血管障害、急性心筋梗塞などに対して 24 時間市民の皆様の期待に応える体制を整備しています。

● 検査の流れ

1. 病棟より、看護師さんと一緒に検査室に入ります。
2. 寝台の上に寝てもらい、リラックスした状態で、鼠径部の動脈に針を刺して検査を始めていきます。(場合によって、動かないように固定をさせてもらうことがあります。)
3. 検査には、ほとんどの場合局所麻酔を使用します。局所麻酔のため、意識がある状態での検査となります。また、検査中に息止めが必要な場合がありますので、ご協力をお願いします。すべての検査に造影剤を用います。これを用いることで血管の走行などを知ることができます。
4. 検査時間は、診断で 1 時間程度、治療だと 2~3 時間程度かかります。
5. 検査が終わりましたら、動脈に刺した針を抜去します。この時、針を刺していた箇所を医師が 10 分程度押さえます。
その後、病棟に戻ってもらいます。病棟では、数時間安静が必要になります。

分からないことなどあれば、担当スタッフにお気軽にお声がけください。

● 造影剤の注意点

ほとんどの方は異常なく検査が終わります。造影剤は安全な薬ですが、まれに軽い副作用:吐き気・かゆみ・くしゃみ・発疹などから重い副作用が起きる場合があります。

- ① 今までに造影剤で副作用を起こした方
- ② 喘息などのアレルギー体質の方

上記の方は、造影剤の副作用を起こしやすいと言われていきますので、事前に医師にご相談ください。

● 資格取得(医師)

脳血管内治療専門医

循環器専門医

IVR 専門医

VAIVT 専門医